

「取りこみ記憶」と「押しつけ記憶」

○仁平 義明 佐藤 拓 菊地 史倫 川嶋 伸佳
(東北大学文学研究科)

key words : 自伝的記憶、取り込み記憶、押しつけ記憶

他者が行なったことなのに自分が行なったことだと記憶している現象(取りこみ記憶)と、自分が行なったことを他者が行ったことだと記憶している現象(押しつけ記憶)の比較研究である。

<取りこみ記憶>は、たとえば次のような記憶である：

幼稚園の年長(6~7才)のとき、近所の神社に初詣に、母・私・姉・祖母で行った。そのときに、出店で300円で1回引けるくじ引きのようなものをして、私が2等賞のお酒を当てたと思っていたが、実は当てたのは姉のほうだった。(女性大学生)

<押しつけ記憶>は、たとえば次のような記憶である：

私は、小さい頃から自分はプリンがずっと好きで、プリンが嫌いだったのは兄だと思っていた。母にある日、「あなたは小さい時プリンが食べられなかった」と言われた。家族によると、兄は小さい頃プリンが好きで今はあまり食べない。私は小さい頃プリンが嫌いだったらしい。(男性大学生)

主人公が誰であるかについて争う記憶(disputed memories)については、経験を共有することが多い双生児の間でとくに顕著な現象であるとされ、もっぱら双生児研究が行われてきた(Sheenら、2001; Kuntayら、2004)。しかし、自分自身が双生児である第一著者の個人的経験からの印象では、この種の記憶は双生児間に限定されない、ごくふつうの現象である。さらに、同じ、主人公争いの記憶でも、「取りこみ記憶」と「押しつけ記憶」を概念上明確に分離して両者の関係を検討することは、これまで行われてこなかった。

そこで、disputed memoriesに、「取りこみ記憶」と「押しつけ記憶」という概念上の区分を設定し、両者の基本的な違いについて検討することにした。

方法

対象者は、大学の学部学生および大学院生であった。対象者は、質問紙によって、取りこみ記憶と押しつけ記憶の有無、その具体的な内容、時期(年齢)、相手の属性、記憶が謝りであったことが判明した理由、記憶の特性(確信度、イメージの鮮明さ、自分にとっての重要度、主体の行為の社会的望ましさ、恥ずかしさ：すべて5段階評定)について回答を行った。

結果

取りこみ記憶を報告した12ケース、押しつけ記憶を報告した12ケースが収集された。

両者の間には、出来事を経験した当時の年齢(取りこみ記憶14.4歳SD5.1、押しつけ記憶11.25歳SD5.5)、相手との年齢差(取りこみ記憶4.2歳SD9.9、押しつけ記憶7.0歳SD11.9)、相手が肉親である割合(取りこみ記憶25.0%、押しつけ記憶33.3%)の点で、差は有意には達しなかった。

記憶の特性では、「記憶のイメージの鮮明度」「その記憶の

自分にとっての重要度」「記憶の確信度」については、差は有意ではなかった(表1)。

表1 「押しつけ記憶」と「取りこみ記憶」の特性の差

	押しつけ記憶	取りこみ記憶	差
イメージ鮮明度	3.33 (SD 0.78)	2.75 (SD 1.36)	ns
重要度	2.17 (SD 1.11)	2.50 (SD 1.09)	ns
確信度	3.58 (SD 0.90)	4.17 (SD 0.84)	ns
社会的望ましさ	2.33 (SD 0.78)	3.17 (SD 0.94)	p<.05
恥ずかしさ	3.50 (SD 1.31)	2.41 (SD 1.17)	p<.05

しかし、その主人公としての行為の「社会的望ましさ」は、取りこみ記憶の方が有意に高く、行為の「恥ずかしさ」は、押しつけ記憶の方が有意に高かった(図1)。

考察

結果は、われわれの記憶システムが自己システムや感情システムと結びついていることを示唆している。「社会的望ましさ」の高い行為は自己に帰属させ、「恥ずかしさ」を伴うような行為は他者に帰属させる記憶の歪曲がみられることは、記憶の機能には自己維持という役割が含まれていると考えられる。しかし、調査可能だったのは、あくまでも顕在化した記憶である。潜在的な押しつけ記憶や取りこみ記憶は、おそらくはるかに多いと推測される。

さらに規模を拡大した調査が必要ではあるが、本研究も、調査という精度がよいとはいえない方法によるものである。とくに、取り込み記憶に限っては、これまでも「業績の剽窃」というかたちで、実験的な研究が行われてきている。取り込み記憶と押しつけ記憶のメカニズムを明らかにするためには、今度は、押しつけ記憶の実験手法が必要になるだろう。

(NIHEI Yoshiaki, SATO Taku, KIKUCHI Fumitoshi, KAWASHIMA Nobuyoshi)

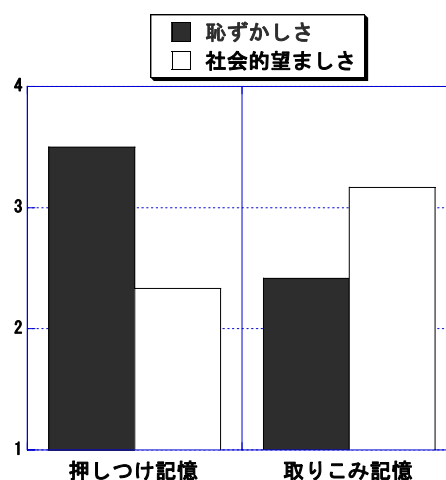


図1 押しつけ記憶と取りこみ記憶の特性の差